

# 徳永直の会会報

第68号

## 阿蘇（立野）大橋崩落

会長 高木陽助

「天災は忘れた頃にやってくる」という。四月十四日午後九時過ぎ、熊本地方を中心に震度7の地震に襲われた。熊本が地震に襲われるとは思ってもいなかった。足下から突き上げ、かき混ぜるような、初めて経験する恐ろしい地震だった。十五日は余震を警戒しつつ、これで地震は山場を超えたと安堵し、散乱した家具や食器類を片付け布団に入った。十六日未明、突然前回よりもさらに強力な、震度7の大地震が襲ってきたのである。死の恐怖も覚えるような激震で、とりあえず妻と近くの公園に逃げ込んだ。

この二度にわたる大地震によって、熊本市や益城町をはじめ、西原村、南阿蘇村、御船町、菊陽町などが特に甚大な被害を被った。今回の大地震によって、高森町や南阿蘇村と国道五七号線とを結ぶ阿蘇（立野）大橋が崩落し、谷底に落下した。交通の不便さは言うに及ばず。一人の青年が巻き込まれ、未だ行方不明である。

この大橋のすぐ下流に九州電力の黒川発電所がある。現在この発電所の貯水槽から大量の水が流出したことが問題となっているが、徳永直は大正八年（一九一九年）二十歳の時、この発電所の見習工となっている。夏、米田鉄三・角田時雄と「労働問題演説会」を計画し、ポスター貼りをしたところ、熊本警察署に検挙され、発電所を解雇された。

一九一九年三月のある午前、阿蘇火山脈の隆起に沿うて、肥

### 目次

・阿蘇（立野）大橋崩落	高木陽助：P1
・「追憶」	中村青史：P2
・「後の祭り」	鈴木之夫：P3
・平成二十八年年度総会報告	：P3
・文学散歩⑩『海の上』	緒方宏章：P6
・第四十回「孟宗忌」及び「平成二十九年年度総会」案内他	：P7

後平野を日向国にぬける××線の旧型ののろい列車に、私は一人ポツンと乗ってゐた。汚れた茶色の襟巻で、まるくて青い顔をつつみ、緋の着物の膝にバスケット一つを抱いて、読みかけの「サアン」を被けたまま、ときどき心ぼそそうに窓の外をみる……。

私は廿一歳でI、始めて見知らぬ土地へ稼ぎに出るので、丁稚、給仕、印刷工、煙草職工等々、子供のころから十回も異なった職についたけれども、いまゆく阿蘇山中の「発電所」の職工といふものは、まるきり想像もつかず不安であった。

（『黎明期』より）

阿蘇外輪山の谷底にある発電所に見習い工になって数カ月経ち、秋になった。

「晴れるんだな？」

谷間の方から五本の大鉄管の列に沿うた岩のあいだの細道をおぼりながら小川五平は中岳の方を見た。切り断った崖の熊笹の上に阿蘇五岳が起伏して、噴煙は白っぽくたゆたいたながら、そのてっぺんは棒のように細くなり、吸いあげられたように鼠色の雲とつらなっていた。

（『黒い輪』より）

## 追憶

## 1、南風堂という所

前会長 中村青史

大学の研究室は極楽であった。完全に自分の城はそこだけだった。新聞社やテレビ局のインタヴューや撮映などもそこで済ませたし、各種文化活動の拠点としても、格好の事務局であった。夏目漱石来熊百年祭の折の国際シンポジウムも、院生に手伝ってもらって大役が果たせた。徳永直顕彰の活動拠点でもあった。直の会役員の月例会は、酒肴持参で充実した議論の場であった。孟宗忌の準備も学生動員で開催できた。

大学退職で、その貴重な別邸が無くなった。困っていた時に南風堂マスターの小山さんに助けられた。店の隣室が空くので、その一隅を使ってよいとのことであった。机・椅子まで用意して下さった。本棚は大学の廃棄品を持ち込んだ。新しい城が誕生した。直の会のみならず、八雲・漱石の熊本アジトでもあったので、「サロン・ド・漱雲」と、書家の森山秀吉師に揮毫してもらった看板を掲げての開業であった。八雲や漱石の会がそれぞれ立ち上げられた後は、もっぱら徳永直事務所であり、そこで読書会や編集会議等も行われ、徳永直作品集全二巻の発行も可能であった。孟宗忌の開催にあたっては、マスターが中心になり会員有志が従事した。この部屋で準備したすべての文化活動の、まさに縁の下の力持的役割を、南風堂マスター小山英史氏が受持っていた。その彼の一面を詩に託す。

## 2、小山英史という男が居た

彼は寡黙の人であった

不言実行型とでも云えようか

カウンターの片隅で

活字を読んでいるか

映像のスポーツを見ているか

退屈するのか。時には

ママと口喧嘩

いとも単純な原因らしかったし

お客はそのやりとりを面白がっていた

知識豊かな彼に対して

理屈の嫌いなママでは

本来なら喧嘩にならないはずなのに

だから、そこが第三者には安心して見ておれるのだった

好き嫌いが画然たる彼は

とても商売には向きそうになかった

えせ者が大嫌いだったし

不正義には烈火のごとく怒った

二人の客が彼と喧嘩して店を去ると

三人の客がなじみ客となった

だから、商売も成り立つのだった

彼の商売は、しかし儲かる商いではなかった

彼は必要以上の金を求めなかった

彼は一円も残さず、この世を去った

残された者にとつて、もめる種は何もなかった

カウンターの片隅に

彼の席は空のまま存在している

ただ彼その人が居ないだけである

今日も

その空席は無限の広がりをもっている

## 「後の祭り」

鈴木之夫

「熊本は地震が少ない」と誰しも思っていたが、大地震が起きてしまった。このような自然災害に備えて、被害発生地点や被害の範囲を予測し、避難場所、避難経路などの情報を地図上にしめし、防災上の問題点や課題などを明らかにしたものが地域防災マップである。

私が自治会長を務める町内では、その必要性は理解しつつも、「私たちの町内は津波、河川の氾濫、がけ崩れ、土石流などは心配無用。地震の確率も低い」と言い訳をしながら作成を先延ばしにしていた。やっと重い腰を上げたのは昨年になってから。防災マップ作成を年度計画に織り込み、市役所の指導も受けながら役員で町内をくまなく歩き、避難場所や危険箇所、いざという時の避難経路の確認、AED設置箇所の調査等を行った。作業が進むにつれ「少しでも役立つものを」と役員の意識も高まり、年末には原稿が仕上がった。年明けの今年一月には校正も終わり、完成を待たずばかりとなった。市役所担当者の「今年度の予算で作りますので、三月には印刷も出来ると思います」という説明を受け、出来上がったら、ただ各家庭に配るのではなく、自主防災組織の再編成と各隣保組長を集めての研修会を行い、どこにも負けない防災体制を整えた町になろう、と意気込んだ私たちであったが、三月末になっても、とうとう地図は出来てこなかった。

そうこうするうちに新年度。なんと来たものは防災マップではなく、まさかの大地震。それも前震本震のダブルパンチ。これまでの取り組みが泡と消え、すべてが後の祭りになったのであった。

（「徳永直の会」会員）

## 平成二八年度「徳永直の会」総会報告

- 1、期日 5月15日（日）午後2時半受付
  - 2、場所 ガーデンパティ（熊本市中央区草場町ダイニング）
  - 3、読書会 午後2時50分～午後4時（70分）  
「徳永直の作品『海の上』について」
  - ① 作品朗読
  - ② 討論会
  - ③ 作品解説（前会長 中村青史 先生）
  - 4、総会 午後4時～午後4時50分（50分）  
① 会長挨拶  
② 2、015年度 事業報告（主な事業）  
2、015年  
5月9日 「井上栄治さんを偲ぶ会」  
於 崇城大学市民ホール小会議室  
5月24日 総会及び「宮崎静夫さんを偲ぶ会」  
於 崇城大学市民ホール小会議室  
7月20日 会報66号発行  
8月5日 「第1回 徳永直の作品紹介文」募集  
2、016年  
1月16日 会報67号発行  
木村一信氏、小山英史氏の追悼号  
2月13日 「第39回 孟宗忌」
  - ③ 2、015年度 会計・監査報告
  - ④ 2、016年度 役員案
- 会 長 高木 陽助（元公立高校教諭）  
事務局長 緒方 宏章（県立第二高校教諭）  
広 報 永田 満徳（元公立高校教諭）  
和 田 崇（三重大学教育学部講師）

会 計 荒木 恵 (県立天草高校教諭)

会計監査 田中 耕二 (県立玉名高校教諭)

堀田 淳子 (県立東稜高校教諭)

評議委員 寺澤 孝子 (「暮らしのわかば会」代表)

廣島 正

(「熊本出版文化会館」代表取締役)

顧問 中村 青史

顧問 中村 青史

(前会長、元熊本大学教授、文学博士)

⑤ 2、016年度 事業計画案 (主な事業)

2、016年

5月15日 総会

於 ガーデンパーティ

8月 会報68号発行

「第2回 徳永直の作品紹介文」募集開始

11月まで

第1回読書会

9月 第2回読書会

10月 文学散歩

2、017年

1月 会報69号発行

2月12日 「第40回 孟宗忌」

⑥ 2、016年度 予算案

⑦ その他

ア 徳永直作品紹介文募集

イ 「会報68号」発行について

ウ ホームページの活用について

エ 「くまもと文化振興会」報告

オ 「総会」について

「孟宗忌」当日に開催する案について

カ 会員募集・その他

徳永直文学碑背後の孟宗竹が伐採されている



2016.03.22

「徳永直文学碑」の背後の孟宗竹が伐採されている。

## ③ 2,015年度会計・監査報告

収入の部	192,902	支出の部	61,542
繰越金	86,922	事務費	1,676
会費(44人)	88,000	通信費	22,572
寄付	17,946	総会関連費	1,600
利子	34	碑前祭関連費	5,454
		会報印刷費	30,240
		作品紹介文関連費	0
		熊本文化振興費	0
		HP関連費	0
		その他	0

注：2,015年度の「熊本文化振興会費」については、次年度に支払う予定。

\*繰越金 131,360円

収入合計 192,902円 - 支出合計 61,542円 = 繰越金 131,360円  
以上の通り御報告致します。

2,016年5月6日  
会計 荒木 恵

\*会計監査報告

監査の結果、上記の通り相違ありません。

2,016年5月12日  
会計監査 田中 耕二

## ④ 2,017年度予算案

収入の部	221,400	支出の部	221,400
繰越金	131,360	事務費	1,000
会費(45人)	90,000	通信費	25,000
寄付	0	総会関連費	5,000
利子	40	碑前祭関連費	10,000
		会報印刷費	35,000
		作品紹介文関連費	10,000
		熊本文化振興費	40,000
		HP関連費	0
		その他	86,400

注：「熊本文化振興会費」につきましては、昨年度と併せて2カ年分。

## 徳永直文学散歩①①

## 『海の上』

緒方 宏章

いまから十九年も以前、九州の三角港から対岸の島原半島へ渡る途中で難破したことがある。

難破といふと少し大袈裟かも知れないが、帆と帆柱がふきちぎられて、普通定期の蒸気船でなら四時間足らずで着くところを、朝のうちに出て夜の八時頃、港でも何でもないところへ、流れついたのだから、六七時間もコース以外の海の上を漂流してゐたわけである。辿りついた地点が何処だったか、よく憶えてゐないが、いま地点で見ると国津津へんでもあったらうか?とにかくそこから人力車ではこぼれて、私達の下宿してゐた港町のTという安宿まで大した時間がかからなかつたのだから。船がその鼻づらをつつこんだ箇所には葦だか何だかいつぱい茂つてゐて、遠浅である水の中を、四ノ這ひになつて這ひあがつた印象はいまも鮮やかである……。

私たちの乗つた船は小さい漁船で、帆柱が一本しかなく、それも十何人の旅客を乗せて、あの何とかいふ有明海と玄海をつなぐ波の荒い瀬戸を乗つてきたのだから、悪天候でなくつても無理だつたに違ひない。よく警察沙汰にならずに済んだと思ふが、じつはそんな無理な船を仕立てたのは私たちであつた。もつと正確にいふと、私

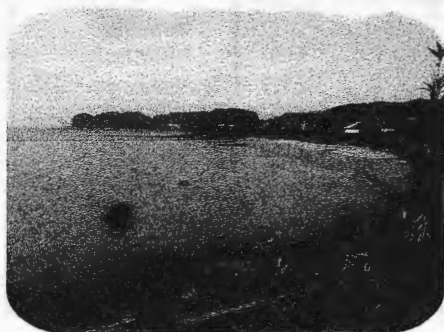


現在の三角東港

たちのうちの日置といふ男だつた。

私たち、日置と角田と三人は、三角港の木賃宿で、既に二夕晩を過して、定期の船を待つてゐた。しかし定期船はもう三日も出なかつた。二百十日も過ぎた時季であつたが、沖は連日シケてゐる。私たちの宿は自然な防波堤になつてゐる岩礁の蔭にあつて、二階からも沖は見えなかつたが、いちんち波と風の音がきこえた。うすぐらく閉めきつた雨戸の隙から顔を出すと、岩礁の背中にひねくれた松がならんでゐて、よごれたうすあかい雲が東へ東へ飛んでゐる。とをくは海とも空ともつかず霧だか霰だかに蔽はれてゐて、横なぐりに吹きつける小粒な雨がうすら冷たかつた。

(昭和二十一年九月二十五日  
再販「風」…櫻井書店より)



遠浅の海岸(奥の裏側に口之津港がある)

三角西港は明治二〇年に開港した。その後明治三二年の九州鉄道三角線の開通により東港が開港し、こちらが発展した。九州鉄道で三角駅にやつて来たところであるので、東港の可能性があるが、どちらの港かははっきりしない。また漂着した場所が、国津津辺りで遠浅とあるので、写真のような場所かと思われるが、こちらからはっきりしない。

私も二十歳前に台風接近の中、荒れる海を移動したことがあり、生きた心地がしなかつた思い出がある。直の場合は、もつと深刻であつたと思われる。

## 計報

とても残念なお知らせです。本年二月十九日、徳永直の長男光一氏が肺気腫にてご死去なさいました。八十八歳でした。「直の会関係者の方々には生前お世話になりましたこと心より御礼申し上げます。本来ならば総会の場でご報告、お礼を申し上げるべきところ、諸事情により叶いませぬことお許し頂きたく存じます。」という丁寧なお手紙が、五月、徳永あかね様より届きました。衷心よりお悔やみ申し上げ、お知らせいたします。

### 「第40回孟宗忌」及び総会のご案内

期日 2,017年2月12日(日)

場所 「碑前祭」 徳永直文学碑前

「第40回孟宗忌」及び「2,017年度総会」

現在会場を探しています。

### 寄付のお礼

この度熊本が大震災に見舞われた、という事で会員の方からお見舞いを頂きました。厚く御礼申し上げます。「徳永直の会」の活動費に使わせて貰います。ありがとうございます。

### お知らせ

徳永直文学碑の背後にある孟宗竹林が、突然伐採されました。此の地は熊本市の風致地区に指定されていますので、地主といえども熊本市の許可がなければ勝手に伐採したりできないはずだ、と思っていたところ、地主の申請を熊本市が今年三月許可しているのです。これには驚きました。今後の対応を考えなければなりません。一応お知らせいたします。(4.ページの写真参照)

### 「徳永直」ホームページのご案内

徳永直のホームページを開設しています。「徳永直の会」の内容や過去の会報一号から三〇号まで掲載しています。また、徳永直に関する書物・研究・記事等の紹介も行っていきます。「徳永直のホームページ」で検索してください。

会員の皆さまからのご意見・ご感想もお待ちしております。また、HPの使用料等に関しましては、会員の和田崇様のご厚意でご負担していただいています。

「徳永直の会ホームページ」<http://tokunagassunaonokai.org/>

### 新規会員募集

新規会員を募集しています。お知り合いの方に、入会のお誘いを願います。

また新規会員募集のためのアイデアがありましたら、お寄せください。

### 住所変更等の連絡のお願い

住所変更等がございましたら、左記までご連絡ください。

〒862-0955 熊本市中央区神水本町六一四〇 緒方 宏章

### 熊本は今

熊本地震から早四ヶ月が経とうとしています。崩壊した建物の撤去が始まりました。崩壊した建物を撤去すると、その向こうにも崩壊した建物。復興は始まったばかりです。そんな中、いろいろな所から店舗の再開などの知らせが届き、とても嬉しくなります。

### お詫び

会報の発行が遅れましたことを、お詫び申し上げます。

## 第2回「徳永直の作品紹介文」募集について

徳永直没後 50 年にあたる 2008 年に「徳永直文学選集」、翌 09 年に「徳永直文学選集Ⅱ」を刊行しました。これを機に多くの方々に、徳永直の作品に触れていただきたいと考えております。

「徳永直の会」では、徳永直の作品を読んだ感想文を募集してきましたが、この度「徳永直の作品紹介文」の募集に替えることとなりました。次の要項で募集いたしますので、多くの方々の応募をお願いします。

- 1 趣 旨 徳永直の功績をたたえ、彼の作品を対象とする紹介文を募集することで、直の作品の読書をすすめ、豊かな心を育てるとともに、労働に対する理解を深めることを目的とします。
- 2 主 催 「徳永直の会」
- 3 対象図書 徳永直の作品
- 4 応募内容 作品の紹介文（未発表のものに限る。400字詰め原稿用紙での枚数：本文のみ）。
  - ①小学生の部 2枚以内（201字～800字）
  - ②中学生の部 3枚以内（601字～1200字）
  - ③高校生の部 4枚以内（1001字～1600字）
  - ④一般の部 5枚以内（1401字～2000字）
- 5 応募方法 応募作品に応募用紙を添付し、郵送かEメール（添付ファイルは Word か一太郎）にて応募してください。
- 6 応募期間 2016年8月1日～2016年11月30日（郵送の場合、当日消印可）
- 7 賞
  - ①最優秀賞（各部門1名以内）  
賞状、賞品（図書カード3000円分）
  - ②優 秀 賞（各部門3名以内）  
賞状、賞品（図書カード1000円分）
  - ③佳 作（各部門10名以内）  
賞状
  - ④学 校 賞（1校以内）多くの作品をご応募いただいた学校の中から選ばせていただきます。  
賞状、賞品（図書カード5000円分）
- 8 選 考 選考委員会において、作品を良く読みこなし表現力等に優れた作品を選びます。
- 9 結果発表 2017年1月に、入賞者に直接お伝えします。また「徳永直の会会報」で発表します。最優秀賞及び優秀賞については、作品集に掲載します。入賞者については、氏名、住所（市区町村名まで）または学校名、年齢または学年等を報道機関にも公表します。
- 10 表彰式 2017年2月12日（日）午後（「孟宗忌」当日） 熊本近代文学館（予定）  
最優秀賞、優秀賞を受賞された方を対象とします。なお表彰式出席に要する諸費用は、本人負担となります。
- 11 応募先・問い合わせ先 〒 860-0051 熊本市西区二本木3丁目1-28 熊本出版文化会館内  
「徳永直の会」事務局 Eメール [open-island@r4.dion.ne.jp](mailto:open-island@r4.dion.ne.jp)  
携帯電話 090 - 5944 - 1573（高木）

### 「徳永直読書感想文」応募用紙

（形式をまねて作られても構いません）

題 名			
フリガナ			
氏 名	( ) 歳		
学校名または職業			学 年
学 校 もしくは 自宅の住所	〒	—	電 話 番 号
対 象 作 品			